

平成29年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する考え方について

テーマ①: 震災メモリアル施設を活用した記憶と経験の継承

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	せんだい3.11メモリアル交流館の認知度が課題であり、知名度を上げるための取り組みとして、飲食物や農産物の販売、校外学習、当館を拠点としたサイクリングロードの整備、ガイド付きバスツアーなどが提案されたが、今後どう取り組んでいくのか。	地元農産物を使ったイベント、市内小中学校に向けた校外学習の提案、被災地を巡るバスツアーなど、既に実施している取り組みもございますが、いただいたご意見を参考にしながら、発信力の強化と施設の認知度向上に努めてまいります。
2	将来、震災遺構仙台市立荒浜小学校の老朽化が進んできた段階で、劣化状況や修繕費用、今後の見通しなどを整理し、その後のあり方を市民に問いかけるべきではないか。	本市としても、震災遺構の維持・保全については課題であると認識しており、利用状況や老朽化状況を把握しながら、将来的な施設のあり方について適宜検討してまいります。
3	震災遺構仙台市立荒浜小学校に関して、多様な視点による証言映像や写真、冊子をしっかり残し、充実させていくべきではないか。	いただいたご意見を参考に、今後、多様な視点から証言映像や写真等の収集を図り、震災の記憶の継承に努めてまいります。
4	被災者の方や観光客の方など来訪者によって求める情報が違うと思われるが、工夫はされているのか。	東部沿岸地域への玄関口となるメモリアル交流館では、1階交流スペースで様々な地域情報を発信しています。また、震災遺構仙台市立荒浜小学校では、被災者に配慮し、地域の思い出と津波被害の状況を別教室に分けて展示しています。こういった取り組みを今後も継続し、来館者のニーズを踏まえた施設運営を行ってまいります。

テーマ②: 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたおもてなし

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	土産品の充実が必要であり、例えば、ターゲットを絞ったゆるキャラグッズや日本酒など、商品開発にあたっては、市民の声も踏まえた「仙台のオリジナル」を確立できるとよいのではないか。	土産品の充実は観光消費を高める上でも重要であり、市民の皆さまのご意見も踏まえ他と差別化がなされた「選ばれる土産品」の開発がより一層促進されるよう、引き続き経済局とも連携しながら取り組んでまいります。
2	イタリアから誘客するにはイタリア語表記の充実、プロモーション、ロゴ作りなどを進め、実現に向け調査や商品開発を計画的に進めていくことが大切ではないか。	国・地域毎の嗜好や特性にあわせ、プロモーションや、外国語表記を含めた受入環境の整備、観光コンテンツの充実を図ってまいります。
3	理容室での「仙台刈り」体験やカラオケ体験、ものづくりや天文台見学といった学習など、「体験」や「学習」などに特化したツアーを組み選んでもらうとよいのではないか。	仙台ツーリストインフォメーションデスクや民間事業者で、外国人観光客を対象とした体験型プログラム・ツアーを用意しています。外国人観光客の興味・嗜好にあわせ内容を深化させるとともに、広報を強化してまいります。
4	海外からの旅行客増加が大事な財源のひとつという意識が市民にまだ浸透していないと思うので、民間レベルでも言葉(外国語)の問題を解決できるよう早めの働きかけが必要だと思う。	セミナー等を通じ、民間事業者への意識啓発を引き続き行ってまいります。また、現在実施している、国内外の観光客に仙台を案内する市民ガイド育成講座等を通じ、市民への働きかけも継続して行ってまいります。
5	まずは、イタリアのホストタウンとして、繋がりを強くするのが一番、そして、継続的に繋がりを持つように、例えば、温泉めぐりやサイクリングのような体験型観光プランなど選べるプランをたくさん作成するのがいいと思った。	まずは東京大会に向けて、イタリアチームの強化合宿の受け入れや青少年交流事業などを実施し、ホストタウン事業を推進してまいります。また、継続的な取り組みとして、仙台ツーリストインフォメーションデスクや民間事業者で、外国人観光客を対象とした体験型プログラム・ツアーを用意しています。外国人観光客の興味・嗜好にあわせ内容を深化させるとともに、広報を強化してまいります。

平成29年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する考え方について

テーマ③: 中心部商店街のにぎわいづくり

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	全国チェーンのお店の出店が多くなっており、一方、昔から仙台にある個性なお店が減少したことで商店街に「仙台らしさ」が失われてきているのではないかと。中心部商店街を基軸に、その周りにもお店を広げていくことで地元の人たちもお店を出せるようになり、個性が出るのではないかと。大型専門店にはない良さやネットにはないリアルならではの魅力を発信する必要があると思う。	仙台市も参画する中心部商店街活性化協議会において、中心部商店街エリア全体の魅力向上に向けて検討しております。また、平成29年度はFM放送を活用し各商店街にある魅力的な個店の情報発信を行っており、今後も個店の魅力発信に努めてまいります。
2	商店街でいつ、どのようなイベントが行われているかが分からないことや、参加店舗での買い物などでもらえる共通駐車券「まちくるチケット」の認知度が低いということなどから、情報発信が足りないのではないかと。継続性のあるイベントを実施して話題性を上げるほか、情報発信については、①駅や地下鉄を活用する、②駅前の大型ビジョンを設置しイベント情報を常に案内する、③市が主導してイベントの発信チャンネルを持つ、④若者にはSNS、中高年には折込チラシなどメディアの使い分けを行うなど、様々な手法により行うとよいのではないかと。	商店街で実施するイベント情報は商店街が独自に行う広報のほか、仙台市メール配信サービスや「まちくる仙台」ホームページ、SNS等で情報発信を行っておりますが、商店街で来街者がリアルタイムに情報を得ることができる手法や、幅広い世代の方に効果的に情報発信する手法について検討してまいります。共通駐車券事業「まちくるチケット」については、事業主体の中心部商店街活性化協議会と連携して認知度向上に努めてまいります。
3	年齢層が上の方はチェーン店のカフェよりも昔ながらの喫茶店の方が魅力的に感じるなど、世代によってどのような商店街に魅力的を感じるかは違うのではないかと。レトロな喫茶店が連なるカフェ通りを作ることで女性の関心を引いたり、若者をターゲットにアニメ作品の聖地巡礼などのタイアップ企画を作る、商店街にプロスポーツ選手を呼ぶのはどうか。	中心部商店街においては、プロスポーツ団体の新人選手お披露目会や、アーケード内の路上でのアニメ作品を活用したイベント、オープンカフェなど様々な催しが行われています。今後も中心部商店街において魅力的なイベント等が行われるよう、商店街と連携して取り組んでまいります。
4	駐車場情報ボードを設置することでわかりやすくしたり、大型カート置き、駐車場までの移動を楽にするのはどうか。	「まちくるチケット」の認知度向上に取り組むことにより車を利用して来街される方の利便性向上に努めてまいります。
5	安全安心の商店街づくりに取り組むボランティアやガイドの配備があるとよい。	現在、商店街において警備員の配置やパトロールを実施しております。また、ガイドに関しては藤崎本館1階に仙台ツーリストインフォメーションデスクにおいて、イベントや店舗等の案内を行っております。

平成29年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する考え方について

テーマ④: 子どもの居場所づくり

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	児童クラブ、放課後子ども教室、子ども食堂の存在や課題を知らない人が多く、情報発信が足りないと思う。多くの人々の協力を得るためにも地域メディアへの取り上げの依頼をはじめ、市政だより、町内会の回覧板、ショッピングモールなどでもっと情報発信をしていくべきではないか。草の根の運動を行政ばかりに頼らず皆の力で解決していくべきではないか。	現在、いずれの事業も、主に近隣の地域の皆様からご支援をいただきながら実施されております。その地域のネットワークの中で、事業の情報が広まり、応援をしてくださる皆様の裾野の広がりにつながっておりますが、さらに事業への支援の輪を広げていくためには、これまで以上のPRが重要であると考えております。ご指摘いただいた手法を始め、より効果的な広報手段を取り入れていけるよう検討してまいります。
2	児童クラブについて、地域の関わりが大事であり、いろいろな場所で情報発信をしていく必要がある。児童クラブの体験ができるとういのではないか。	児童館では、児童クラブに登録していない子どもも、放課後、学校から帰宅した後、児童館に自由に来館でき、児童クラブに登録している子ども達と一緒に過ごすことができます。このような利用ができることも含め、児童館で行っている他の事業についても、様々な機会を捉え、地域の皆様に情報発信していきたいと思っております。
3	子ども食堂について、協力したいという地域の人のために、広報誌等で周知してほしいと思った。	子ども食堂の運営に際しては、活動状況を地域へ情報発信することが難しいということをお聞きしています。利用する子どもや運営へ協力してくださる方々へ周知が図られるよう、効果的な手法等について検討してまいります。
4	子ども食堂について、市が農家の方や企業とマッチングを行い、そのままでは廃棄される予定のものを有効利用すればよいのではないか。	子ども食堂運営団体やそれを支援しようとする関係者の方が、相互に関係を持ち、継続的な運営につながるような仕組みを検討してまいります。
5	子ども食堂については子どもの目が留まる場所で行うのがいいと思った(学校でのプリント配布等)。	子ども食堂の運営に際しては、活動状況を地域へ情報発信することが難しいということをお聞きしています。いただいたご意見も踏まえながら、利用する子どもへ活動の周知が図られるよう、効果的な手法等について検討してまいります。

テーマ⑤: 認知症の人が暮らしやすい地域づくり

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	介護予防サークルや、認知症にならないことを目指すサークルなどがあるが、地域差、住宅環境の差で情報の流通に差がうまれている。相談の場に出向くのではなく、スーパーなどに窓口を設け気軽に相談できる環境づくりが必要ではないか。	認知症の人やその家族、地域の人など誰もが参加でき、認知症について学び、専門家に相談できる場である「認知症カフェ」がスーパーや市民センター、福祉施設などで開催されており、詳しい場所や日時については仙台市のホームページでご案内しております。引き続き、「認知症カフェ」の開催を推進するなど、身近な場所で気軽に相談できる環境づくりに努めてまいります。
2	力になりたいという方と手助けを受けたい方、双方が繋がる仕組みを考えていく必要があるのではないか。	認知症に関する正しい知識と理解のための講座を受講した「認知症サポーター」の養成を引き続き推進するとともに、力になりたいという方々が様々な場面で活躍してもらえるような機会の創出に努めてまいります。
3	認知症サポーター制度の充実が偏見の減少、ひいては周囲に話しやすくなり安心して暮らせるようになるのではないか。認知症サポーター養成講座を小学校、中学校、保護者に向け定期的に実施してはどうか。	認知症サポーター養成講座については、一部の小中学校では定期的に開催されていますが、さらに多くの学校で開催できるようにはたらきかけを行い、正しい知識と普及啓発に努めてまいります。
4	高齢者・障がい者・子どもが一か所に集まり互いに支え合う富山型デイサービスの仕組みづくりも目指すべきではないか。	高齢者・障がい者・子どもなど、一体的に支援する取り組みが行われている地域もあり、地域の社会資源を生かしながら今後の支援について考えてまいります。
5	単身世帯の増加が進行するこれから、認知症単身世帯をどのように見守るか、町内会単位のサポート(あるいはNPOでの)の構築の検討が必要だと思う。	単身世帯が増加する中、町内会、医療・介護関係機関、NPO等の様々な関係機関と連携しながら、日常生活上の支援体制の充実を図ってまいります。
6	地域の方々とのつながり方を考える必要がある。地域行事に子どもがいない世帯も参加できるようなことがあればよいと思う。	地域の人がつながる場となる「認知症カフェ」(認知症の人やその家族、地域の人など誰もが参加でき、認知症について学び、専門家に相談できる場)について、設置推進を図っております。
7	様々な地域団体が活動している今、各団体の活動を介護や地域の支え合いにまで広げられれば、みんなが幸せに暮らしていけるのではないか。	地域における社会資源に関する情報を収集・整理し、関係機関などに情報提供を行うことで、関係者のネットワーク化に努めてまいります。

平成29年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する考え方について

テーマ⑥:新しい本庁舎に期待すること

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	日頃の手続きは区役所で間に合うため本庁舎に出向く理由がなく、「市民が訪れたい新しい本庁舎」を改めて考えていく必要がある。マルシェのような庁舎や気軽に立ち寄れる庁舎、緑が広がる庁舎といった視点も考えてはどうか。	市民が訪れたい庁舎にするためにはどのような取り組みが必要になるか、さらに掘り下げて市民のご意見を伺うため、平成30年3月にワークショップを実施しました。そこでのご意見は、本庁舎建替基本構想の検討を行っている有識者会議に報告してご議論いただくなど、引き続き「市民が訪れたい」といった視点も踏まえながら、検討してまいります。
2	長く使えて市民の誇りになりシンボルとなる庁舎にしたい。中途半端なものを造るのではなく、しっかりとしたものを建てて長く持たせてほしい。建築費はもちろん光熱費、修繕費、最終的には除去する費用も含め考えなければならないが、透明化かつ分かりやすく、比較も交え説明してくれれば市民も納得するのではないか。	仙台市のシンボルとして長く使える庁舎となるよう、将来の様々な変化にも柔軟に対応可能となる工夫を取り入れるよう検討してまいります。 また、建築費や維持管理費などの、建物の生涯に要する、いわゆる「ライフサイクルコスト」については、最適なコストになるよう、設備やフロア計画などの配慮について基本構想や基本計画などに盛り込むとともに、広くご理解いただけるよう情報の発信に努めてまいります。
3	新しい本庁舎の場所は現在地が有力であるが、市民広場と本庁舎の一体化も視野に入れてはどうか。市民広場との間に人の流れを作ったほうがよいのではないかと。	新庁舎の立地場所は、有識者会議においても検討を行っており、立地計画案の一つとして、市民広場付近も含めた整備計画案もお示ししました。現在の敷地で建て替える場合と費用やスケジュールなどを比較しながら、ご議論いただき、立地のあり方について検討を深めてまいります。
4	入ったところに門番がいるような感じではなく、もっとオープンに入れるといい。市長室を市民にすぐ会える1階にしてもよいのではないかと。	新庁舎のコンセプトや機能は、有識者会議においても検討を行っており、いただいたご意見は会議の中で紹介しました。引き続き、幅広い視点を持ってコンセプトや配置について検討してまいります。
5	オープンで自由に議論できるよう議場も変わるべきではないかと。立ちながら議論する議場というのもよいかもしれない。	議会棟のあり方については、市議会の「新たな本庁舎・議会棟の整備調査特別委員会」においても議論が行われており、会議の中でご意見を紹介しました。当該委員会の議論も踏まえながら、引き続き、検討を行ってまいります。
6	議会や会議室などを使わないときは貸し出したらいいのではないかと。	新庁舎をどのように使っていくかについては、今後策定を行う基本計画などで、方向性を定めていく予定にしております。いただいたご意見につきましても、その検討の中で参考とさせていただきます。